

## 国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（令和3年度第1回）

開催日	令和3年6月16日(水)
場所	本部棟2F会議室 and Web会議
出席者	麻生委員, 井上委員, 小笠原委員, 久保田委員, 高原委員, 松岡委員, 宮腰委員, 山口委員（五十音順） 学長, 理事（研究・総務・国際・施設担当）, 理事（教育・学生・情報担当）, 理事（入試・計画評価・ダイバーシティ担当）, 理事（経営改革・財務担当）, 理事（広報・社会連携担当）, 工学研究院長, 情報工学研究院長, 生命体工学研究科長
列席者	近藤監事, 林田監事, 学長特別補佐（産学連携担当）, 教養教育院長
会議成立	構成員19名のところ, 17名の出席により定足数を満たしていることが確認された。
新年度の挨拶	学長から, 会議に先立ち新年度の挨拶として, 昨年の取組と今年の抱負について, 報告があった。

議題	NO	議題	結果	主な意見（○：学外委員, △：学内委員）
議題1	(審議事項)	令和2年度決算について	原案のとおり承認され, 役員会に付議	<p>○：図表が示され, わかりやすくなった。</p> <p>○：正確に着実に実施することが大切である。</p> <p>○：ベンチマーキングの位置づけなど行っているのか。</p> <p>△：行っている。各大学で定義など異なるが, 工業系の単科大学と本学の位置づけをみて, 今後に向けて検討している。</p> <p>○：指標については, 数字が独り歩きしないように, 補足説明を付すなど記載方法には注意したほうが良い。</p>
議題2	(審議事項)	令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について	一部修正のうえ承認され, 役員会に付議	<p>○：学生の支援にかかる企業の関わりについて, 事実が淡々と書かれているが, これがどういいのか, 何がいいのか伝わるように工夫したらどうか。</p> <p>○：明専会からの学生プロジェクトへの支援については, さらに5年間継続実施することとなったが, その間に, 多くの企業から寄付が集まり, 学生の育成支援ができるように頑張ってもらいたい。</p> <p>△：学生プロジェクトは, 明専会様, 安川電気様からスタートした事業であり, 多くの方から共感を得るように推進したい。</p> <p>○：大きな成果になりそうな取組について, メディアに対し, 情報提供をすれば発信されるため, 可能な限り情報提供するようにしてはどうか。</p> <p>○：コロナ禍が収束した後, コロナ禍において大学がどのように変わったか, 検討するためにまとめた方がよい。また, どのように変わったか検証してほしい。</p> <p>○：学長裁量経費が計画を上回って確保できたのは, 数字を淡々と書くだけではなく, どのようにして計画以上を達成しているのか, 九工大の活動, 努力, 取組等がわかるような説明が含まれていた方が上手く伝わると思う。</p> <p>△：わかりやすいように文言を検討したい。</p>
議題3	(審議事項)	大学機関別認証評価に係る自己評価書(案)について	原案のとおり承認され, 役員会に付議	

議題	NO	議題	結果	主な意見（○：学外委員，△：学内委員）
議題4	(審議事項)	第4期中期目標・中期計画について	原案のとおり承認され、役員会に付議	○：選択から5項目は少ない印象だが、九工大らしさを出して行ってほしい。 ○：大学も産業界と積極的に連携していくことは、大学の魅力となるのではないか。そのような気構えを持った大学を目指してほしい。また、教育職員も、積極的に産学連携への連携に取り組む文化を作って行ってほしいのが希望である。 △：第3期は、学外との多様な組織との多様な組織との連携を掲げていて、教員一人当たりの研究費の額は全国4番目までになった。これから、質も高めるために、GYMLABOなどを活用し、産学連携の取組を積極的に推進していきたい。
議題5	(報告事項)	令和3年度九州工業大学入学者選抜実施状況について		○：女子学生が来たい大学となるように、取り組んでほしい。 ○：ウェブサイトについて、情報が総花的でわかりにくい印象がある。大学の特性やオリジナルな取り組みををウェブサイトにおいて発信することが重要だと思う。また、イベントも開催告知だけでなく終了後の実施結果などの情報発信があれば、さらに良さが広がるのではないか。 ○：女子の卒業生は、母校のつながりを大切にしようとする気合いが強いのではないかと感じる。女性が活躍する大学となってほしい。
議題6	(報告事項)	令和2年度卒業（修了）者の就職状況及び就職先について		
議題7	(報告事項)	経営協議会学外委員の意見を活用した法人運営の主な改善事例について		
議題8	その他（1）	飯塚キャンパスにおける産学連携施設新営建物検討状況について		○：GYMLABOと一体感を持って取り組んでほしい。 △：分野横断型のワークショップなど、活用方法を検討していきたい。 ○：シリコンバレー、スタンフォードでの事例のイメージを共有しながら進めてはどうか。
議題9	その他（2）	国立大学法人ガバナンス・コードにかかる法人経営を担いうる人材を計画的に育成することについて		○：企業においても難しく、実際には、経験を増やしていくしかないのではないか。教育プログラムで学んだことを、活用していくことをどのように経験させるかが難しい。 ○：教育職員が教育研究をマネジメントをしているという理由で、経営の専門家の為のプログラムをわざわざ作る必要があるのか。 ○：国立大学協会が実施するセミナーは大学運営のリーダーを育成を目指すものである。経営と運営を分けて考えるという整理が必要ではないか。 ○：時間軸でいえば、育成には時間がかかる。プログラムによって育成するのは難しいのではないかと感じる。企業では、自然と人材がでてくる印象がある。